

健木八の川柳アート

39

川柳の材料を見つけるのは

あなたの?マークです。左記の拙句もすべ
て?マークによる発想なのです。

護送みたいだシートベルトで縛られて
輸入米放出……味がイマイチで
地球にやさしかったね船場吉兆は
蚊のやうに採血器具を再使用
点滴が天敵となる恐ろしさ
タクシーが居酒屋兼業とは便利

特選

選者・川柳アート
八木健

(月刊川柳総合誌「川柳マガジン」元選者)



矢田 茂雄 (松山市)

嫁にきた当初は楽な農作業

農家の嫁不足は、五十年あまりその傾向が続いていていまだ解決していない。フィリピンなど外国から女性を迎え入れたりもした。食料を支える農業は、高度成長の陰で常に不遇であった。だから句のように娘さんを拝みたおして……なにもせんでええが……と。

佳作



藤原 白男 (今治市)

犬の尻拭く娘が拭かぬ親の尻

娘をもって老後が安心なんてのは昔話なんですね。親の遺産をもらう以上は世話もせにやならんが、可愛い犬を世話するときのように身が入らないんですね。だって犬は言葉が話せないから人が察知してあげないといけないのよ。はいはい。



石原 康正 (松山市)

加えたい予報にナマズ中継を

中国の大地震を見て作者が思いついたのは、「なまずの地震予知能力の活用である。各地のなまずの様子を天気予報の中で中継してはどうか」ということである。一度試してみる価値はありますね。ダメだったら食べちゃうのか。



田辺 進水 (松山市)

看護師さんが好きだが病院は嫌い

看護師さんが好きだから病院に行く。というのは案外多いだろう。「癒やし」の効果はあるが、結局それが医療費の無駄使いにつながる。だから医療費抑制には看護師採用の時点で美人は不採用とするのが効果的だろうね。



岩間 昇 (東温市)

自分史がいつか自慢史めくる

自分史を書くということは、自分を活字にして書物に留めることだから、自慢するのが好きな奴は大いに自慢話を書いたらいい。ただし、タイトルは自分史でなくて自慢史となる。しかし、自慢と気づかせないで自慢するのが技である。失敗談をひとつ、吉永小百合とデートしたときに尻をひりましてね……。

古今の名句



村田 周魚

電柱に犬を真似てるいい月夜

大正九年、川柳界の名門、きやり吟社を創設した。川柳特有の「穿ち」がなく、おだやかな作風で知られる。父と祖父が俳人という家系に生まれ自身も当初は俳句をつくっていた。だから俳句の季題川柳が多く、全作品の四十パーセントもある。東京生まれ、昭和四十二年に七十八歳で没。



みんなで作った自暴自棄に住む社会

秋葉原の無差別殺傷事件を起こした青年の動機を分析した結果、「きわめて個人的な特別な事件」として幕を引くのはよろしくない。不安定な身分の派遣社員として百万単位の若者が将来に絶望して暗澹たる思いで日々を過ごしている。そういう社会を許している私たちも責めを負わねばならぬ。

本コーナーが
待望の単行本化
好評発売中!!

「八木健の川柳アート」では、川柳を募集しています。テーマは自由。未発表のオリジナル作品に限ります。採用された作品には八木さんが「川柳アート」を作り、本誌に掲載の上、採用者にプレゼントいたします。応募方法は36ページをご覧ください。